

平成 30 年度カリキュラム概要

和歌山県立医科大学は、医師及び医学研究者としての幅広い教養、柔軟な思考力と創造性、豊かな人間性、高邁な倫理観を涵養し、基礎および臨床医学における高度で専門的かつ総合的な能力を修得させ、良好な患者 - 医師関係を築くためのコミュニケーション能力とリーダーシップを備えた協調性の高い人材及び地域医療・健康福祉の向上に寄与するとともに国際的にも活躍できる人材を育成することを教育理念としています。本学では学修成果基盤型教育を中心に、ディプロマポリシーと整合性をとった形で、卒業時コンピテンスと下位目標であるコンピテンシーを作成しています。昨年度、医学教育分野別評価の認定を受け、その内容は平成 30 年度のカリキュラムにも反映されています。

本年度は、臨床実習の選択制の期間が 3 週間延長され 18 週間となり、総時間数も 62 週になり最終形となります。また、診療参加型臨床実習実施ガイドライン（平成 28 年度改訂版）で長期間の実習が望ましいとされている診療科を中心に、関連する 2 科を同時に回ることにより、一人の患者を入院から退院まで継続的に診察することが可能となりました。期間中の実習内容などについては今後も検討を続けていきます。

学生が低学年から患者と触れ合う実習として、地域での臨床体験実習に加え、1 年次では保健看護学部の学生とともに、患者の生の声を聞き、学生同士で意見交換し、その内容を発表するケアマインド教育を継続していきます。また、①医師として必要な研究マインドの涵養 ②臨床能力に繋がる基礎医学の知識および問題解決能力の獲得 ③基礎医学者を目指す学生の育成を目的にこれまで 3 年生の VI 期の秋から開始していた基礎配属を V 期のはじめから開始し通年性に変更しました。

医学教育は学部教育の 6 年間で修了するものではなく、生涯を通じて、自己研鑽を行える能力を在学中に身につけることが必要です。できるだけ、学習の機会を利用し自分自身で学ぶ習慣を身につけてください。特に、低学年では、高校時代の受け身の学習態度を改め、医学生としての学習スタイルに変更する事が必要です。また、将来の医学領域の国際化を踏まえ、早期から語学能力を高める努力を行ってください。

教育要項は、教育の理念・方針を示すものです。新学期にあたり、内容を熟読し、周知することを望みます。医学部教育は、より成人型教育、能動教育に移行してきています。自ら積極的に学ぶ者には、修学の機会は増えますが、そうでない学生は修学の機会を失うことになり、学生間の能力の差が拡大します。

医学の世界は、卒前・卒後医学教育、専門医制度、医療制度など多くの変革の時期を迎えています。真の医学者になるために、個々人がしっかりと自分の目標を定め、その目標に向かって邁進してください。